

平成29年度調査研究 研究紀要

くろめ版

小学校外国語教育ハンドブック

E

N J O Y

N

G

L

I

S

H

平成30年3月

久留米市教育センター

小学校外国語教育ハンドブック

目次

I	小学校外国語教育 Q&A	1
Q 1	「外国語活動」と「外国語科」の違いは？	2
Q 2	外国語活動や外国語科の単元構成の仕方は？	3
Q 3	文字（アルファベット）の指導はどうするのか？	4
Q 4	文字（アルファベット）の書き方はどのように指導するのか？	6
Q 5	英語のまとまった文字を読んだり書いたりする指導の進め方は？	8
Q 6	小学校外国語科でも文法指導を行うのか？	9
Q 7	クラスルームイングリッシュの使い方は？	10
Q 8	A L T（外国語指導助手）の効果的な活用法は？	13
II	授業実践のための参考資料	15
実践 1	第4学年 Unit6 「Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう」	16
実践 2	第4学年 Unit8 「This is my favorite place. お気に入りの場所を紹介しよう」	19
実践 3	第5学年 Unit5 「She can run fast. He can jump high. できること」	22
III	平成30年度と31年度の先行実施に向けて	25
1	久留米市における先行実施の考え方	26
2	外国語活動及び外国語科のカリキュラム例	27
(1)	平成30年度（第3学年～第6学年）	29
(2)	平成31年度（第3学年～第6学年）	35
3	授業時数の効果的な運用について	41
4	小学校外国語教育の充実に向けた研修について	43

第1章

小学校外国語教育 Q & A

中学年の外国語活動や高学年の外国語科の指導をする上でポイントになることを「Q & A」方式で紹介します。

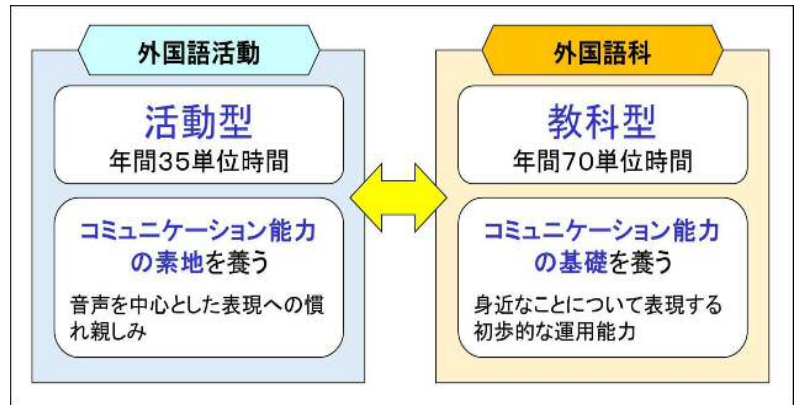
Q1

中学年の「外国語活動」と高学年の「外国語科」では、どのような違いがあるのでしょうか？

外国語活動は「活動型」、外国語科は「教科型」

外国語活動と外国語科の一番の違いは、外国語活動が「活動型」であることに対して、外国語科が「教科型」であることです。

外国語活動では、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標としているため、体験的な活動を通して、表現に慣れ親しむことを大切にしています。



一方、外国語科では、コミュニケーション能力の基礎を養うために教科型とし、身近なことについて表現する初歩的な運用能力を身に付けさせるようにしています。

学習指導要領の指導事項の表記に目を向けると、外国語活動では「～するようにする。」と表記されていますが、外国語科では「～できるようにする。」と表記されています。ここにも、活動型で慣れ親しむことを目指す外国語活動と教科型で初歩的な運用能力の育成を目指す外国語科の違いが表れています。

外国語活動は音声中心、外国語科では読み書きも指導

これまで外国語活動では、文字は扱わず音声を中心とした指導を行ってきました。しかし、外国語科では、文字を取り上げ、文字の読み書き指導も行うことになりました。

そのため、学習指導要領では、内容の領域が次のように示されました。

	外国語活動	外国語科
領域	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くこと ・話すこと[やり取り] ・話すこと[発表] 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くこと ・読むこと ・話すこと[やり取り] ・話すこと[発表] ・書くこと

外国語活動では、「話すこと」が[やり取り]と[発表]で区別され、3つの領域になり、外国語科では「読むこと」と「書くこと」が加わり、5つの領域になりました。

ただし、どちらも「聞くこと」から「話すこと」の順で示されており、音声で聞き慣れた英語表現を使ってコミュニケーションを図るような指導をすることが意図されています。また、外国語科では、「話すこと」から「書くこと」の順で示されており、まずは、音声で英語表現に慣れ親しむ、書くことの指導につないでいこうとする意図も表れています。

Q2

外国語活動や外国語科では、どのように単元を構成すればいいのでしょうか？

魅力的な言語活動を設定する

外国語活動でも外国語科でも児童が目的意識をもって学習活動に取り組むようにすることが大切です。そのため、単元を貫く目的となる言語活動の設定が重要になります。言語活動を設定する際には、単元で慣れ親しませたい（身に付けさせたい）英語表現を使う必然性がある、児童の興味・関心を高めることができるといった視点が大切になります。

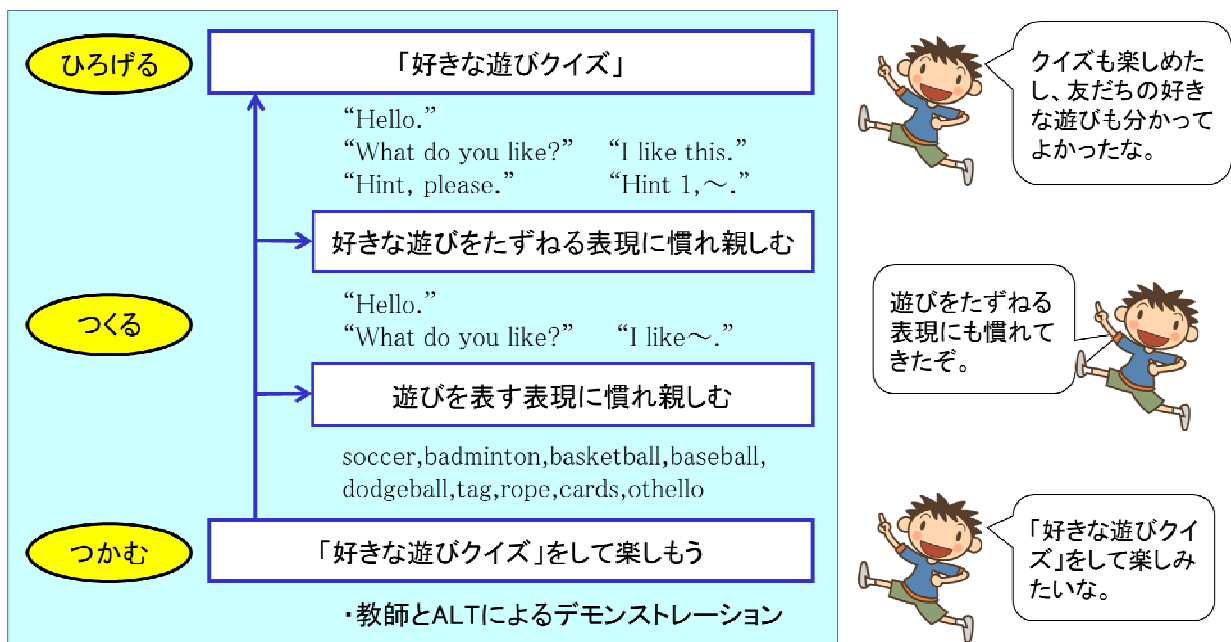
例えば、「好きな遊びクイズ」という言語活動を設定し、“What do you like?” “I like～.”といった英語表現や“soccer” “baseball” “cards”といった遊びを表す単語を使う必然性をもたせたり、児童の興味・関心を高めたりします。

目的に向かって学習活動に取り組めるように単元を構成する

単元を貫く目的となる言語活動を設定したら、児童が目的を意識しながら学習活動に取り組むことができるように単元を構成していきます。

そこで、「つかむ段階」では、教師とALT（外国語指導助手）のデモンストレーションや映像を見たりして、目的となる言語活動をイメージし、自分たちもコミュニケーションを楽しみたいという思いをもたせるようにします。「つくる段階」では、チャンツや様々なゲームを通して、目的のコミュニケーションに必要な英語表現に慣れ親しむようにします。そうすることで、児童はコミュニケーションへの自信と意欲を高めていきます。そして、「ひろげる段階」では、それまでに慣れ親しんだ英語表現を使いながら目的となる言語活動を楽しみ、満足感を味わうようにします。

<外国語活動・外国語科の単元構成のイメージ>



Q3

文字（アルファベット）の指導は、どうすればよいのですか？

アルファベット認識のステップを意識して指導する

文字指導では、まず、アルファベットを認識できるようにすることが大切です。アルファベットの認識とは、個々のアルファベットの読み方と文字との対応を理解することを指します。

学習者は、下記の4つのステップでアルファベットを認識していきます。小学校においては、中学年でステップ1を繰り返し、高学年でステップ2～ステップ4を指導していきます。

ステップ1

アルファベットの音声を聞いて、どの文字であるかが分かる

ここでは、アルファベットの名称である /ei/ /bi:/ /si:/ という読み方を聞いて、それがアルファベットのどの文字を指すのか分かるようにします。

しかし、明示的に文字の形を指導したりアルファベット順に暗記させたりしてはいけません。楽しみながら文字に慣れ親しむことができるようにすることが重要です。

そこで、歌やチャンツの中で文字の読み方に慣れ親しんだり、文字の形を指で作ったり、形に着目して仲間分けをしたりする活動を通して、文字に親しみ、文字に対する興味・関心が高まるようにします。

その上で、アルファベットの読み方を聞き、大文字や小文字で書かれたアルファベットの中から、そのアルファベットを選ぶような活動を行います。



ステップ2

アルファベットを見て、それを音声化できる

ここでは、活字体で書かれたアルファベットの形の違いを識別したり、その文字を見てその読み方を適切に発音したりすることができるようにします。例えば、“A, a”を見て、/ei/ と発音したり、“B, b”を見て /bi:/ と発音したりできるようにします。

そのために、中学年でアルファベットの大文字・小文字に慣れ親しんだことを踏まえ、アルファベットの文字を児童自ら声に出して読む機会を位置づけます。その際、アルファベットカードでカルタとりを行い、アルファベットを読む児童を交代しながら進めるなど、読む必然性をもたせる工夫をすることが大切です。

ステップ3

アルファベットを書き写すことができる

文字の読み方を聞いたり、文字を声に出して読んだりして、文字の読み方や形に十分慣れ親しんだら、アルファベットを書く段階に移ります。しかし、ここでは、お手本を写したり、教師が準備したものをなぞったりすることから始め、児童の負担がないようにします。

ステップ4

アルファベットの音声を聞いて、その文字が書ける

ここでは、アルファベットの音声を聞いて、何も見ることなく自分の力で活字体の大文字・小文字を書くことができるようにします。

その際、いわゆる「ドリル学習」のような、単調な繰り返しの学習に終始するのではなく、何らかの書く目的をもたせたり、ゲーム的要素を取り入れたりして、児童の学習意欲を高める工夫をすることが必要です。

このような4つのステップで、児童はアルファベットを認識していきます。中学年の外国語活動や高学年の外国語科の指導をする際、この認識のステップを意識することで、ねらいを明確にしながら学習活動を展開することにつながります。

アルファベットの指導とローマ字指導

第3学年の国語科において「ローマ字」が指導されていることを踏まえ、指導の工夫をする必要があります。例えば、同じアルファベットでもローマ字読みと英語読みで読み方が異なることに戸惑う児童がいます。そのため、「ローマ字」とはあくまでも日本語をヨーロッパで生まれた文字を用いて書き表す表記法であることを十分に伝えることが大切です。

また、外国語科では、日本語の発音にできるだけ近い音を再現できるように考案された「ヘボン式ローマ字」で表記します。そのため、「ローマ字」の指導をする際、実態に応じて「ヘボン式ローマ字」も指導することで、外国語科との接続を円滑に進めることができます。

コラム

アルファベットの音の指導について

英語の文字には、「名称」と「音」があります。

例えば、“a”や“c”という文字は、/ei/ や /si:/ という「名称」があると同時に、語の中では/æ/ (例: bag, apple) や/ei/ (例: station, brave)、/s/ (例: circle, city) や/k/ (例: cap, music) という「音」をもちます。

音声で十分に慣れ親しみ、絵を見てそれが表す語を言えるようになったら、今度はつづりに意識を向けて「音」への気づきを促すことができます。

例えば、ペンやペンギン、ピンク色の絵カードを見せながら、“pen, /p/, /p/, /p/, pen” “penguin, /p/, /p/, /p/, penguin” “pink, /p/, /p/, /p/, pink”のように語の初めの音(=初頭音)を取り出して発音します。そして初頭音を発音しながら、カードに記されたつづりの最初の文字を指で囲んだり、文字カードを見せたりして、/pi:/という「名称」の文字には/p/という「音」もあることに気付かせます。

文字の名称		語の中での音	
A	a	bag	station
(ei)	(ei)	(æ)	(ei)
C	c	city	music
(si:)	(si:)	(s)	(k)

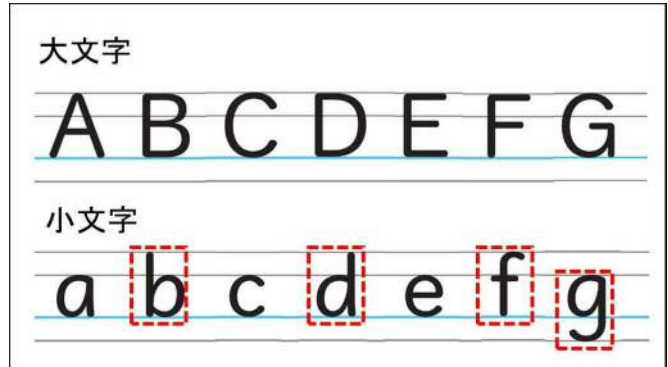
Q4

文字（アルファベット）の書き方を指導する際のポイントを教えてください。

4線を使いながら文字の書き方を指導する

小学校外国語科では、「大文字と小文字を正しく書き分けることができるようにすること」が求められています。

大文字と小文字では、右の資料のように文字を書く位置や文字の形、大きさが異なります。大文字と小文字を正しく書き分けるとは、それぞれの文字の形や大きさ、位置に気を付けながら書くことを指します。



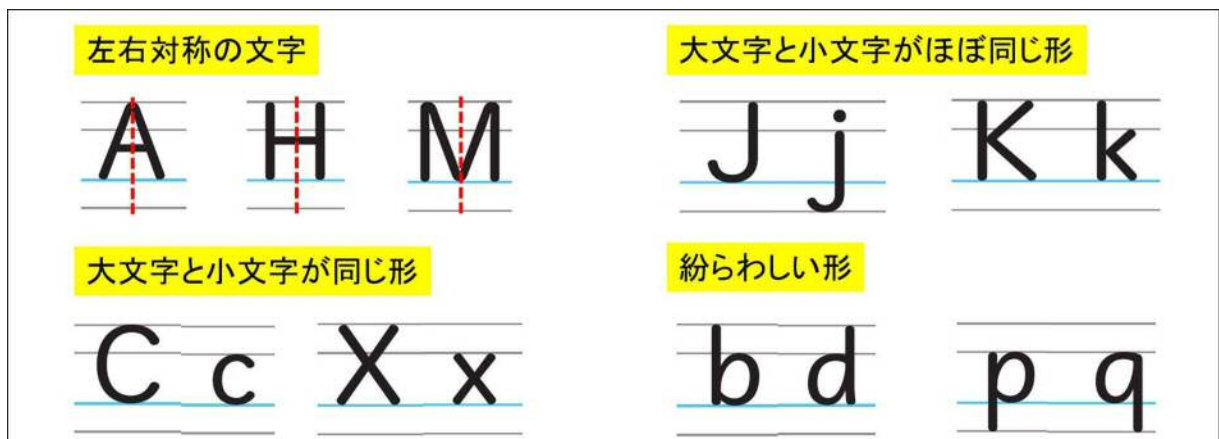
そのためには、4線を使いながら文字を書かせ、文字の位置や大きさに注意を払わせることが大切です。また、教師が提示するカードにも4線を示しておく効果が高まります。

ちなみに4線の幅に目を向けると、基本線と2線との間が広がっています。これは、小文字に不慣れな児童でも安心感をもって書くことができるようにするとともに、各小文字の特徴に気付くやすくなるためです。

文字の形の特徴に気付かせながら指導する

児童が大文字や小文字を書き分けることができるようにするためには、文字を書く活動を繰り返し位置づけることが大切です。しかし、機械的に文字を書かせるのではなく、文字の形の特徴に気付かせながら指導することで、その効果を高めることができます。

例えば、文字の中には、左右対称になっているものがあります。また、大文字と小文字を比べると、形が全く同じで大きさだけが違うものや一部を除いてほぼ同じ形のものもあります。そこで、「左右対称になっている文字を見つけましょう。」「大文字と小文字が同じ形の文字はどれでしょう。」などと問いかけ、文字の特徴に気付かせていきます。そうすることで、児童に文字の形が印象付けられ、文字の書き方が定着しやすくなります。



標準的な書き順で書くように指導する

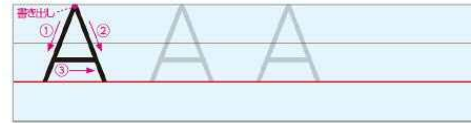
文字の書き順について、学習指導要領解説では、「文字の書き順については、書きやすさと読みやすさの点から標準的な書き順を扱うようにする。」と記されています。

では、標準的な書き順とは、どのようなものでしょうか？「Hi, friends! Plus」（文部科学省）には、右のようにそれぞれの文字の書き順が示されており、これが標準的な書き順になります。「Hi, friends! Plus」は、文部科学省のホームページからダウンロードすることも可能ですので、参考にしながら指導するとよいです。

ただし、あまりにも筆順を意識させすぎて、児童の書きたいという意欲を削がないように留意する必要があります。



アルファベットの大文字を書こう。



コラム

「a」と「a」、「g」と「g」は、どちらを書いた方がいいの？

さまざまな印刷物で使われているアルファベットを見ると、「a」が「a」と表記されていたり、「g」が「g」と表記されていたりします。これは、使っているアルファベットの字体の違いによるものです。

アルファベットには、右のように「活字体」「ブロック体」「筆記体」という字体があります。「a」や「g」はブロック体、「a」や「g」は一般の印刷物で使われる活字体です。

学習指導要領には、「大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。」と示されていますが、ここでいう「活字体」はブロック体を指しています。

ですから、児童には、ブロック体である「a」や「g」を書くように指導することになります。

ちなみに、筆記体については、中学校の外国語科において、生徒の学習負担に配慮しながら指導することができるとされている内容であり、小学校の外国語科では扱わないとされています。

アルファベットの字体



活字体

印刷物で使われる読むための文字。



ブロック体

活字体を手で書きやすくした文字。



筆記体

速く、美しく書くための文字。

Q5

単語や文を読んだり書いたりすることの指導は、どうすればよいのですか？

音声による慣れ親しみを重視して指導する

外国語科では、英語で書かれた単語や文を読んだり書いたりすることを指導します。しかし、中学校の外国語科のように英語で書かれた単語や文の意味を正しく捉えたり、日本語を英語に書き換えたりすることを目指すものではありません。

「読むこと」の指導については、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かることを目指しています。しかも、絵や写真などの言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読む程度しか求められていません。

「書くこと」の指導では、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができることを目指しています。これについても、例文を参考にしながら、一文や一部を自分が表現したい内容に置き換えて書く程度しか求められていません。

このように、小学校外国語科における「読むこと」や「書くこと」の指導は、どちらも音声による慣れ親しみを重視して指導することが重要になります。

また、音声による様々な表現に慣れ親しんだ児童は、自分も英語を読みたい、書きたいという思いをもつようになります。このような児童の思いを大切に、児童の負担にならないように、「読むこと」や「書くこと」の指導を進めることも大切です。

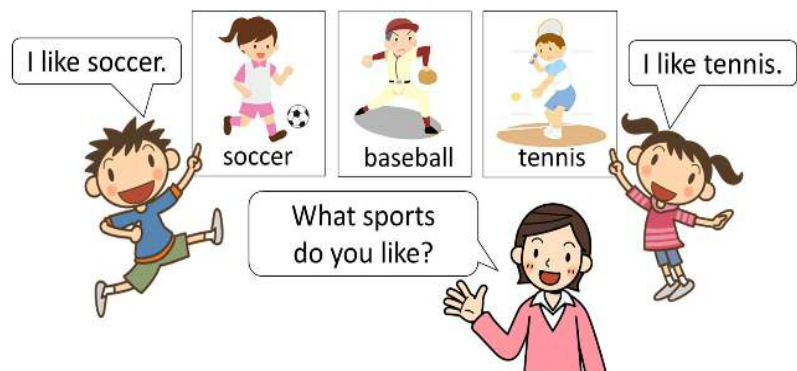


外国語活動において文字を使った指導を充実させる

英語で書かれた単語や文を読んだり書いたりする指導は、外国語科で指導する内容です。しかし、音声中心の外国語活動において、文字を使った指導を充実させることで、外国語科における「読むこと」や「書くこと」の指導を効果的に進めることができます。

文字を使った指導とは、音声に慣れ親しむ際に、絵と文字を合わせた資料を繰り返し提示し、無意識のうちに文字に慣れさせることです。

ただし、補助的に提示することによって十分留意する必要があります。



Q6

小学校外国語科でも中学校のような文法指導を行う必要があるのですか？

小学校外国語科では、明示的な文法指導はしません

小学校外国語科では、「英語の特徴やきまりに関する事項」の中で、音声、文字及び符号、語、連語及び慣用表現、文及び文構造が「言語材料」として示されています。

これらの多くは、これまでの外国語活動でも取り扱ってきましたが、三人称や動名詞、過去形など、これまで取り扱ってこなかったものも若干含まれています。これらの指導事項は、中学校の文法指導をイメージさせますが、文法・用語や用法についての理解を目指すものではありません。

「指導計画の作成と内容の取り扱い」にも、「文法の用語や用法の指導に偏ることがないよう配慮して」という注意が書かれているように、「過去形」という用語を指導したり、動詞の変形を練習させたりして、「過去形」という文法規則の完璧なマスターを目的としているものではありません。



コミュニケーションの中での慣れ親しみを大切にした指導

では、明示的でない文法指導とはどのような指導なのでしょう？ 次のような、動名詞や過去形を含む表現を指導する場面を例に考えてみましょう。

(例1) I like playing tennis.

(例2) I enjoyed fishing.

(例3) I went to Okinawa. I saw the blue sea. It was beautiful.

(例1)のような動名詞を取り扱う際は、「自分の好きなことを紹介しよう」という単元を設定し、友達とやり取りをしたり発表したりする中で、“I like playing tennis.”と表現することを理解させます。けっして“playing tennis”の部分に焦点を当てて、動名詞の使い方を理解させ、“Playing tennis is fun.”などの異なる表現の中で活用することを指導するわけではありません。

また、(例2)(例3)のような過去形を取り扱う際は、第2学期の初めの時期に、「夏休みの思い出について発表しよう」という単元を設定するなどして、自分の経験したことを伝える表現として言語活動の中で過去形を活用できるよう指導することが重要となります。

Q7

クラスルームイングリッシュ（教室英語）について教えてください。

担任がクラスルームイングリッシュを使うことの意義

クラスルームイングリッシュ（教室英語）とは、外国語活動や外国語科の授業で使用する表現です。あいさつや指示、コメントなどの表現が主に使用されます。英語があまり得意ではないという先生方も多いと思いますが、できるだけクラスルームイングリッシュを使用することが大切です。

それは、担任がクラスルームイングリッシュを使用することで、次のような効果が生まれるからです。



- 学級担任が積極的に英語を使用することで、外国語活動や外国語科の授業の雰囲気をつくり、児童が授業に参加しようとする意欲を高めることができる。
- ジェスチャーを交えながら英語を繰り返し使用することで、児童が自然に英語の表現や音、語順に慣れ親しむことができる。
- ALTが授業の内容を把握しやすくなり、より積極的に児童とかかわることができるようになる。

クラスルームイングリッシュの使用場面について

クラスルームイングリッシュは、授業を始める時や活動を指示する時、児童を賞賛する時など、様々な場面で使用します。それぞれの場面で使用するクラスルームイングリッシュの一例を示しておきます。事前に繰り返し練習し、自然に使用できるようにしておきましょう。

授業を始める時

Hello. (Hi.)	こんにちは。
Good morning, everyone.	みんなさん、おはようございます。
Good afternoon, boys and girls.	みなさん、こんにちは。
How are you?	元気ですか。
You look fine (sleepy, tired).	元気そう(眠そう、疲れているよう)ですね。
It's hot (cold) today.	今日は暑い(寒い)ですね。

活動の指示をする時(全体での活動)

Please stand up (sit down).	立ちましょう(すわりましょう)。
Please come here.	こちらに来てください。
Please go back to your seat.	席にもどってください。
Now, let's begin.	さあ、始めましょう。
Look at these pictures.	これらの絵を見てください。
Raise your hand.	手を挙げてください。
Repeat after me.	私の言ったことを繰り返しましょう。
Answer my questions.	質問に答えてください。
Speak louder, please.	もっと大きな声で言いましょう。
Any volunteers?	だれかやってくれる人はいませんか。
Guess what?	何だと思いますか。
Are you finished?	終わりましたか。

活動の指示をする時(ペアやグループでの活動)

Make pairs, please.	ペアをつくってください。
Please make a circle.	円をつくってください。
Let's make two lines.	2列になりましょう。
Let's play this game in groups.	グループでこのゲームをしましょう。
Let's give them a big hand.	大きな拍手をしましょう。
Face your partner.	相手の方を向きなさい。
I'll divide the class into six groups.	クラスを6つのグループに分けます。
Time's up.	時間です。

児童を賞賛する時

Perfect.	完璧。
Super. (Awesome. Excellent. Wonderful. Great. Fantastic.)	すばらしい。
Well done.	上手にできたね。
Good job.	よくやったね。
Very good.	とてもいいね。
Close.	おいしい。
Good try.	よくがんばったね。
Try again.	もう一度やってみよう。
Keep trying.	そのままがんばって。

授業を終わる時

That's all for today's lesson.	今日の授業はここまでです。
It's time for us to stop.	終わりの時間です。
Did you have a fun?	今日は楽しかったですか。
Thank you very much for your try.	がんばってくれてありがとう。
Good bye, everyone.	みなさん、さようなら。
See you next time.	次回また会いましょう。

上記以外のクラスルームイングリッシュについては、「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」（文部科学省）のP118～P123を参照ください。

コラム

インタラクション(英語でのやり取り)でコミュニケーション力UP！

英語で質問されたことに対して英語で返答する言葉のやりとりをインタラクションといいます。例えば、“What day is it today?”と聞かれて、“It's Tuesday.”や“Wednesday.”などと答えたり、“How's the weather?”と聞かれて、“It's sunny.”や“it's cloudy.”などと答えたりするようなやり取りのことを指します。クラスルームイングリッシュを使用する際に、このような英語でのやり取りを意識しながら進めることで、児童のコミュニケーション力の向上につながります。

例えば、“How are you?”と聞かれたら、自分の体調を考えて“I'm fine.”や“I'm sleepy.”などと英語で返答するようにします。そして、“I'm sleepy.”と答えた児童に対して、“What time did you go to bed last night?”と尋ね返し、さらに返答を求めます。

学級の実態に応じて、このような機会を増やしていくことで、児童のコミュニケーション力を高めることができます。



Q8

ALT（外国語指導助手）の効果的な活用法について教えてください。

ティーム・ティーチングにおける学級担任とALTの役割

学級担任とALTでティーム・ティーチングを行う場合、学級担任が授業をデザインし、授業場面では、コーディネーターとして、児童をサポートしたりALTと児童をつないだりすることが大切です。

ティーム・ティーチングの効果を高めるためには、正しい英語を話す存在、児童の英語を使ったコミュニケーションの相手であるという存在、異国の文化や生活について教えてくれる存在であるというALTの特性を生かして指導する必要があります。

〔ALTの特性〕

- ・正しい英語のモデル
- ・英語を使ったコミュニケーション
- ・異国の文化や生活



ALTの役割と活用場面について

学級担任とALTでティーム・ティーチングを行う場合、次のような場面でALTを活用すると効果的です。

活用1

学級担任とコミュニケーションのモデルを示す

児童に活動をさせる際、まず、学級担任とALTでデモンストレーションを行います。そうすることで、児童は活動のイメージをつかむことができます。

また、学級担任が外国の人と英語で話す姿を見せることで、「自分も先生のように話したいなあ。」と学習への興味・関心を高めることもできます。



活用2

ネイティブ・スピーカーの正しい発音を繰り返し聞かせる

ALTと児童で歌やチャンツを繰り返したり、ALTの話聞かせたりしながら、児童に正しい発音を聞かせるようにします。

その際、学級担任は、児童の様子を観察し、児童の反応によっては、ALTの発言を制止したり、繰り返させたり、ゆっくり言わせたりすることも必要です。

活用3

学習した英語を使って児童と会話する

学習した英語を使って児童がALTと話す機会を設定します。

そうすることで、「自分の英語が伝わった。」「外国の人が話していることが分かった。」という達成感を味わわせることができます。この達成感が、さらなる児童の学習意欲につながります。

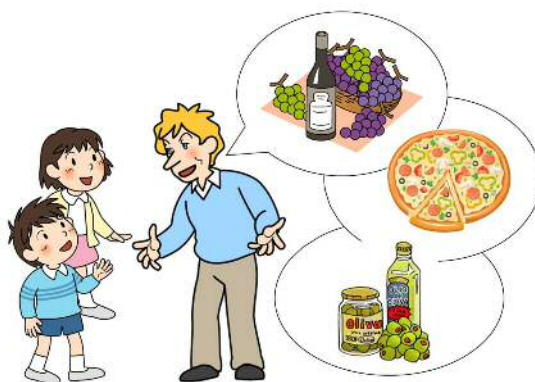


活用4

外国の文化や生活についての情報を伝える

児童にとって異文化と触れることは、とても新鮮であり、学習への興味・関心を高めることにつながります。

そのため、ALTに自国の文化について話してもらったり、児童がALTに自国の好きな食べ物や有名な場所をたずねたりする機会を設定することも大切です。



活用5

児童の技能面を評価する

学習の振り返りの場面では、児童の活動に対して気付いたことをほめることが大切です。その際、児童の日常の様子をよく知っている学級担任は、児童の意欲や態度といった情意面を中心にほめるようにします。

一方、ALTについては、児童の英語によるコミュニケーションの技能面をほめるようにします。児童は、ネイティブ・スピーカーであるALTからほめられることで、英語を話すことに自信をもち、次の学習への意欲を高めることにつながります。

コラム

自己紹介は「姓」+「名」、それとも「名」+「姓」

“Hi, friends!”では、日本人の名前が“Suzuki Sakura”というように「姓」+「名」の順で表現されています。以前は、「名」+「姓」の順で表現することが一般的でしたが、現在は、“My name is Suzuki Sakura.”というように、普段日本語で話している順で名乗ることが多くなっています。

ここには、日本語固有の表記を尊重しようとする考えが表れています。人類の持つ言語や文化の多様性を人類全体が意識し、生かすという立場からも大切にしたいものです。

第2章

授業実践のための参考資料

文部科学省から配布された新教材や指導計画に工夫を加え、授業をよりよいものにしていくためのポイントを紹介します。

4年	Unit 6	Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう
----	--------	---------------------------

「アルファベットクイズをしよう！」

児童は、本単元で初めて、アルファベットの小文字に出会います。そこで、「アルファベットクイズ」をするという目的意識をもたせ、活字体の小文字を識別し、文字の読み方に慣れ親しむことができるようにします。そのために、相手の持っているアルファベットを尋ねたり、答えたりするコミュニケーションを楽しみながら行うことができるようにします。

使わせたい英語表現

- What's this? Hint, please.
- How many letters? I have (six).
- Do you have (a)? Yes, I do. / No, I don't.
- That's right. Sorry, try again.

単元計画	全4時間	
時間	ねらい	指導のポイント
1	アルファベットには大文字と小文字があることや、小文字の読み方（名称）を知り、アルファベットクイズをすることへの意欲を高める。	○今まで慣れ親しんできた英単語の頭文字に着目しながら仲間分けさせることで、アルファベットの小文字に注目させ、単元の学習への意欲を高める。
アルファベットクイズをしよう。		
2	アルファベットの小文字とその読み方に慣れ親しみ、大文字と小文字を一致させることができる。	○様々なゲームを通して、楽しみながら小文字の読み方に慣れ親しませ、大文字と小文字を一致させることができるようにする。
3	アルファベットの文字とその読み方に慣れ親しみ、何が書かれているか当てることができる。	○絵カードと単語カードのマッチングを小集団でさせることで、お互いに教え合うことができるようにする。
4	アルファベットの文字について尋ねたり答えたりすることができる。	○出題者と回答者のペアを自由に交代させることで、自分から進んでコミュニケーションをとることができるようにする。

本単元の指導のアイデア

第1時

アルファベットに注目させるゲームで単元導入

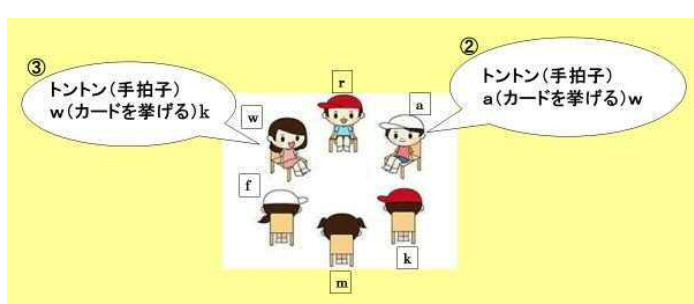
本単元では、活字体の小文字を識別し、文字の読み方に慣れ親しむことができるようにすることをねらいとしています。

これまでの活動を通して慣れ親しんできた英単語を用いることで抵抗感を少なくしたり、アルファベットに注目させるゲームを行うことで楽しみながら単元の学習への意欲を高めることができます。

アルファベットコールゲーム

アルファベットコールを繰り返しながら読み方に慣れ親しむことができるゲーム。

- ① 一人一文字ずつカードを配る。
- ② 手拍子のリズムにのって自分の文字を言いながらカードを挙げ、その後に相手の（好きな）文字を言う。
- ③ 言われた児童は同様に、手拍子のリズムにのって自分の文字を言いながらカードを挙げ、その後に相手の（好きな）文字を言う。
- ④ ②～③をリズムにのって繰り返す。



カード取りゲーム（かるた取り）

教師がアルファベットや単語を言い、児童がその文字や絵カードを取ることで、アルファベットの小文字とその読み方に慣れ親しませるゲーム。

- ① 各児童が1セットのカードを使って行う。
 - ② ペアで1セットのカードを使って行う。
 - ③ ペアで競争する（速さを競う）。
 - ④ ペアで競争する（数を競う）。
 - ⑤ 教師が“How many letters?”と質問し、児童が“I have～.”と答え、文字数を競う。
- ※ ①②を行う際には、児童にじっくり聞かせ、各自にどのような言い方かを確かめさせるようにする。
- ※ ③④については、児童がある程度言い方に慣れてきた段階で行うと効果的。
- ※ ⑤を行う前には、第4時の活動がスムーズに行えるように慣れ親しませておく。

第2時～第3時

小文字に慣れ親しませるゲーム

アルファベットの文字とその読み方に慣れ親しませ、大文字と小文字を一致させるゲームです。いろいろなマッチングゲームを組み合わせることで、児童も飽きることなくゲームを繰り返しながら、アルファベットに慣れ親しむことができます。また、第4時で使う会話表現をゲームの中に段階的に仕組むことで、スムーズにコミュニケーションを行うことができます。

マッチングゲーム1

- ① 教師が大文字のカードを提示する。
- ② 各児童が小文字のカードを取る。
- ③ ②をペアで競争する（速さや数を競う）。

マッチングゲーム2

- ① グループをつくり、大文字、小文字、ジョーカーの入ったカードを配る。
- ② トランプのババ抜き的要領で、大文字、小文字が合ったら、そのアルファベットを発音しながら出していく。

マッチングゲーム3

- ① 絵カードと単語カードのマッチングゲームをグループで行う。
 - ※ グループで行うことで、お互いに教え合うことができる。
 - ※ 第4時のコミュニケーションがスムーズに行えるように慣れ親しませる。

第4時

コミュニケーションを楽しむアルファベットクイズ

本単元では、アルファベットの小文字を識別し、その読み方に慣れ親しむことができるようにします。相手の持っているアルファベットを尋ねたり、答えたりするコミュニケーションを楽しみながら何度も繰り返し行うことで単元の目標達成が期待されます。

【Question】

“Hello”

“What’s this?”

“I have (six).”

“Yes, I do.”

“No, I don’t.”

“That’s right.”

“Sorry, try again.”



【Answer】

“Hello”

“Hint, please.”

“How many letters?”

“Do you have(a)?”

“It’s ~.”

黒板に本時の流れを示したり、これまで学習した英単語カードを掲示したりすることで、どの児童も自信をもって楽しみながらコミュニケーションができるようにします。また、途中で振り返り活動を仕組むことによって、児童が次に気を付けるところを確認できたり、友達に褒められることによって意欲が湧いてきたりと後半のコミュニケーションがより活発で有意義なものになります。

4年	Unit 8	This is my favorite place. お気に入りの場所を紹介しよう
----	--------	---

「お気に入りの場所を紹介しよう！」

本単元では、Unit 2 で慣れ親しんだ様々な動作を表す語を活用して、自分が気に入っている校内の場所に案内し、その場所について自分の考えを伝えるようにします。

そこで、チャンツやキーワードゲームを通して教室の言い方に慣れ親しむとともに、案内ゲームを楽しみながら道案内に必要な表現やお気に入りの場所を紹介する表現に慣れ親しむようにします。

使わせたい英語表現
<p>○Go straight. Turn [right / left]. This is (the music room).</p> <p>This is my favorite place.</p> <p>Why ? I like (music).</p> <p>○教室名... science room, music room, cooking room, art room, library, gym, playground, teacher's office, classroom, computer room, principal room</p>

単元計画	全 4 時間	
時間	ねらい	指導のポイント
1	教室名の言い方に慣れ親しみ、学校の中での自分のお気に入りの場所を紹介する意欲をもつ。	○校内の好きな場所を紹介するモデルを示したり、キーワードゲームをしたりして、単元の学習への意欲を高める。
学校の中のお気に入りの場所を紹介しよう。		
2	世界には様々な学校生活があることを知るとともに、教室についてまとまった話を聞いて内容がわかるようにする。	○外国の学校紹介に関する映像資料を活用し、日本の学校と外国の学校の相違点に気付かせる。
3	道案内の仕方に慣れ親しみ、自分が好きな校内スポットを言って、紹介しようとする。	○教師が使った語や英語表現をヒントにしながら、校内で好きな場所について友達と伝え合うようにする。
4	相手に配慮しながら、自分が好きな校内スポットを紹介しようとする。	○ペア活動を設定し、相手に配慮しながら自分の考えも含めて伝えることができるようにする。

本単元の指導のアイデア

第1時

キーワードゲームで教室の言い方に慣れ親しませる

本単元では、自分が気に入っている校内の場所に案内し、その場所についての自分の考えを相手に紹介できるようにすることをねらいとしています。そのためには、教師が校内の好きな場所を紹介するモデルを示したり、教室の言い方に慣れ親しませたりして、好きな場所を紹介することへの意欲を高めることが重要になります。

その際、繰り返し教室の言い方を唱えるのではなく、次のようなキーワードゲームに取り組みせると、児童が楽しみながら教室の言い方に慣れ親しむことができます。

キーワードゲーム

様々なワード（教室名）が記入されたピクチャーカードの中から、キーワードの発音が出た時に、素早く反応した人が勝ちとなるゲームです。例えば、“science room”をキーワードとした場合、教師が教室名を次々に発音していき、“science room”と発音した時に、素早く反応した児童が勝ちとなります。

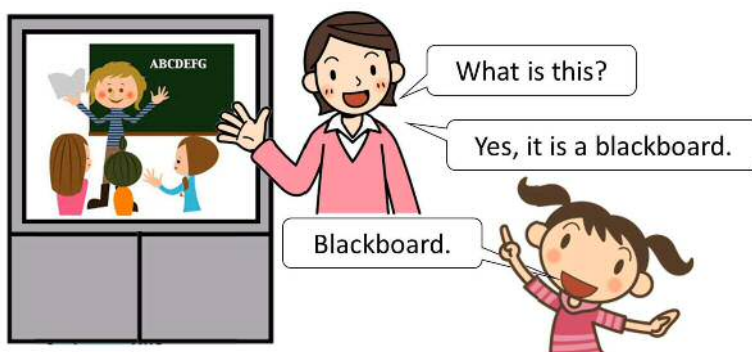
- ① ペアを作り、ペアで消しゴムを一つ用意し、2人の間に置きます。
 - ② 教室名が記入されたピクチャーカードを提示します。
(例) science room, music room, cooking room, art room, library, gym, playground, teacher's office, classroom, computer room, principal room
 - ③ ピクチャーカードを指しながら何度か発音練習をします。
 - ④ 教師が「キーワード」を指定した後に、教室名を次々に発音していきます。
 - ⑤ 児童は教師が発音した教室名をリピートします。キーワードが発音された時には、児童はリピートせずに消しゴムを取り合います。
- 慣れてきたら、教師役を児童に務めさせると、より児童の意欲が増します。

第2時

映像資料を基にやり取りをし、日本と外国の違いに気付かせる

第2時では、教室の言い方や道案内の仕方に慣れ親しむだけでなく、日本と外国の教室の違いに気付くことも重要になります。外国と比較することで、文化の違いに気付くことはもちろん、自分たちの教室の良さを自覚し、紹介への意欲を高めることにつながります。

そこで、学校紹介に関する映像資料を視聴し、日本と外国の学校の共通点や違いへの気付きを促します。その際、一方的に視聴させるのではなく、映像を止めて、“What is this?”と児童に問いかけ、やり取りをすることで、英語によるコミュニケーションも同時に行いながら気付きを促すことができます。



第3時

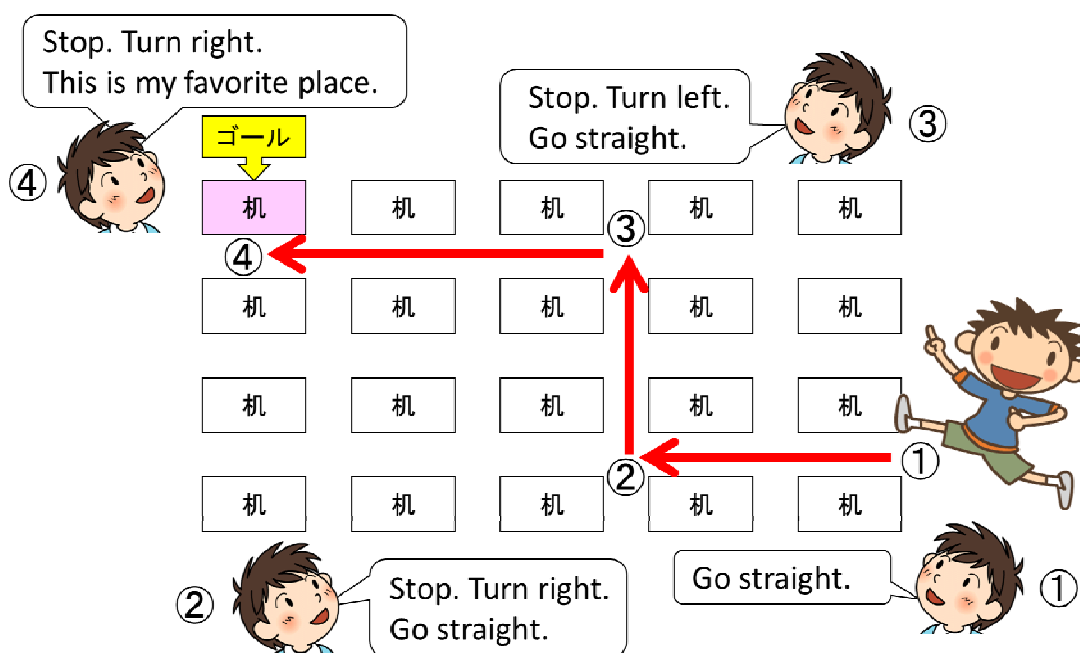
教室で模擬体験をしながら道案内の仕方に慣れ親しませる

第3時は、他者を自分が好きな場所まで案内することに慣れ親しませます。

そこで、まず、教室の中で友達を目的地まで案内する活動に取り組みさせます。友達とペアになり、案内役と案内される役に分かれて、これまで慣れ親しんできた“Go straight.”

“Stop.” “Turn left.” “Turn right.”などの表現を使いながら、目的地まで友達を誘導していきます。このように教室を使った模擬体験をすることで、児童は楽しみながら道案内の仕方や好きな理由の伝え方を学習することができます。

また、友達と学校内の好きな場所を伝え合うだけでなく、人気の校内スポットを確かめようという目的をもたせることで、児童の活動意欲を高めることができます。



第4時

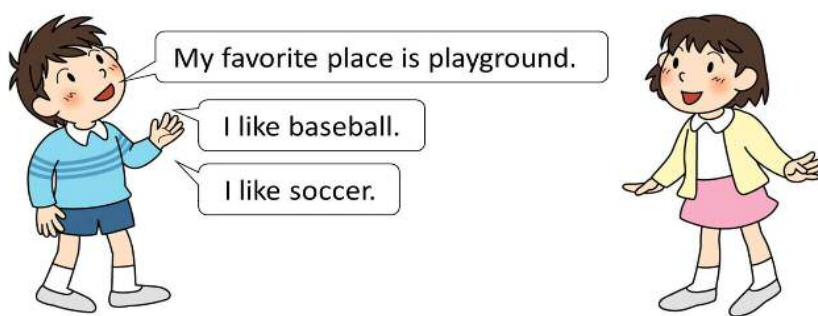
実際にペアで好きな場所を紹介し合う場面を設定する

第4時は、実際に他者を好きな場所まで案内し、好きな理由を伝えるようにします。

そのために、校内地図を用いて自分のお気に入りの場所を案内するスキットを演じさせたり、第3時と同じように教室を校内地図に見立てて案内したりする活動に取り組みさせます。

そして、案内するだけでなく、“My favorite place is playground.”と好きな場所を伝えたり、“I like baseball.” “I like soccer.”などと好きな理由を伝えたりするようにします。

なお、校舎内を移動し、実際にその場所まで連れて行くようにすれば、児童の意欲をさらに高めることにつながります。



5年	Unit 5	She can run fast. He can jump high. できること
----	--------	---

「○○先生のことを ALT の先生に紹介しよう！」

児童は、本単元で初めて、he、she といった三人称代名詞を含む表現に出会います。そこで、第三者である○○先生を ALT の先生に紹介するという目的意識をもたせ、“He can run fast. He can jump high.”などと、第三者を紹介できるようにします。また、インタビュー活動やクイズづくりを通して、コミュニケーションの楽しさや文字を書く喜びを味わうことができるようにします。

使わせたい英語表現
<p>○Can you～? Yes, I can. / No, I can't. [I/ You/ He/ She][can / can't]～.</p> <p>○動作を表す語…run, swim, cook, sing, dance, speak, fly, jump, play soccer, play baseball, do judo, do karate, ride a bicycle, ride a unicycle, play the piano, play the guitar, play the recorder, draw a picture</p> <p>様子を表す言葉…fast, well, high</p>

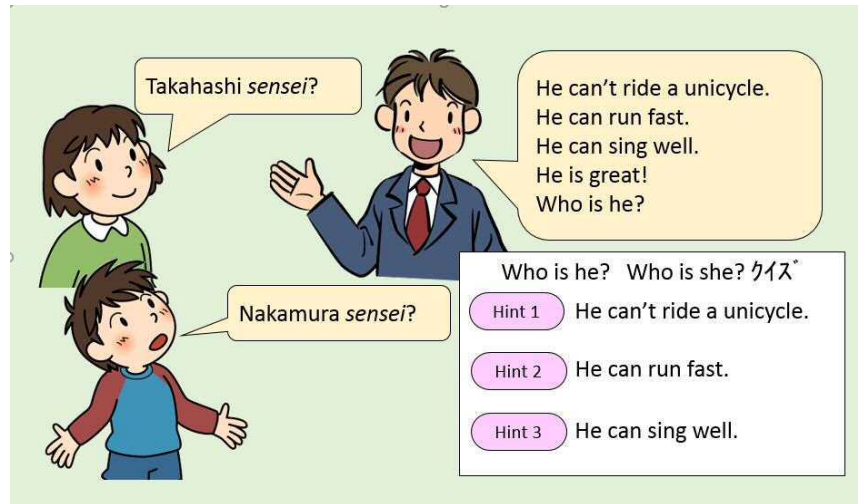
単元計画	全 8 時間	
時間	ねらい	指導のポイント
1	動作を表す語を知るとともに、第三者をクイズで紹介することへの意欲を高める。	○クイズ形式の先生紹介のデモンストレーションを行い、単元の学習への意欲を高める。
人物当てクイズをしながら○○先生のことをALTの先生に紹介しよう。		
2～4	「できること」や「できないこと」の具体的な情報を聞き取るとともに、尋ねたり答えたりできる。	○様々なゲームを通して、「できること」や「できないこと」を尋ねたり答えたりできるようにする。
5～6	例を参考に紹介文を書き写したり、インタビューの練習をしたりする。	○友達の見紹介カードを書く活動を通して、文字を書き写すことに慣れ親しませるようにする。
課外	※担当の先生にインタビューをする。	
7～8	人物当てクイズをつくり、自分のことや簡単な感想も含めて紹介することができる。	○紹介のモデルを提示し、イメージをつかませる。

本単元の指導のアイデア

第1時

クイズ形式の人物紹介と出合わせ、子どもたちの意欲をUP！

本単元では、「できること」や「できないこと」を中心に第三者を紹介できるようにすることをねらいとしています。クイズ形式で人物を紹介するという活動を体験させることで、「自分たちもやってみたい」と単元の学習への意欲を高めることができます。



第2時～第4時

ゲームの工夫で楽しいコミュニケーション活動

「We Can! 1」(新教材5年)にも、児童が楽しみながら「できること」や「できないこと」を尋ねたり答えたりする活動が示されています。次のようなゲームも、「できること」や「できないこと」を尋ねたり答えたりすることに慣れ親しむ上で効果的です。

なりきり動物インタビューゲーム

自分が引いたカードに書かれてある動物になりきって、グループの友達からの質問に答えたり、相手が何の動物になりきっているかを当てたりするのを楽しむゲーム。

例) A: カードを引く。(うさぎ)

B: Can you jump?

A: Yes, I can. I can jump.

C: Can you sing?

A: No, I can't. I can't sing.

D: Can you swim?

A: No, I can't. I can't swim.

BCD: Are you a kangaroo?

A: No, I'm not. I'm a rabbit.

これできる? インタビュー活動

教室内を歩いて回り、友達にあることについてできるかどうかを尋ね、できる場合は、そのイラストの下に名前を書いてもらう。答えるときは、well、fast、highなどを付ける。

例) A: Can you swim, ○○san?

B: Yes, I can. I can swim (well/ fast).

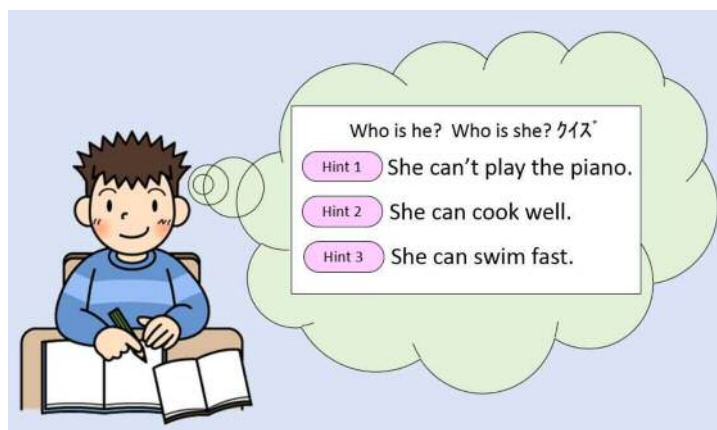
※ 「上手に泳げる」のときは“well”を使い、「速く泳げる」のときは“fast”を使うというように、意味の違いに気付かせる。

第5時～第6時**クイズづくりを通して書くことの指導を指導する**

本单元では、第三者の「できること」や「できないこと」について、例を参考に書き写すことができるようにします。しかし、これは紹介するための発表原稿を書くことではありません。目的意識をもち、必要に応じて書くようにすることが大切です。

そこで、本单元では、人物を紹介する際に使うカードを作成するために書くようにします。学習後も廊下にカードを掲示し、いろいろな人がクイズを楽しめるようにすることで、児童の意欲をさらに高めることもできます。

また、指導する際には、音声を通して十分に慣れ親しんだ表現を書き写すことや語句から文へと書き写す量を段階的に増やすことにも留意する必要があります。

**第7時～第8時****自分のことや簡単な感想も含めて紹介するモデルを提示する**

本单元では、第三者を紹介する際に、自分のことや簡単な感想も含めて紹介できるようにします。そのような紹介をする場合、三人称代名詞と一人称代名詞を使い分けながら話すことが必要になります。

そこで、指導者が紹介のモデルを提示し、紹介のイメージをつかませるとともに、一人称代名詞と三人称代名詞の使い方に意識を向けさせることも大切です。



第3章

移行期間中の先行実施について

移行期間中の先行実施の在り方やカリキュラムを編成する際のポイント、校内における研修の進め方を紹介します。

1 久留米市における先行実施の考え方について

文部科学省は、平成30年度と31年度の2年間、移行措置として「第3学年及び第4学年においては外国語活動最低15時間を、第5学年及び第6学年においては外国語科の内容を加え最低50時間を実施する」と示しています。また、文部科学省は、平成32年度からの全面実施を想定した年間指導計画例や新教材（「Let's Try!」「We Can!」）を配布し、移行措置だけではなく、実態に応じて先行実施に取り組むこともできるようにしています。それは、外国語教育の充実のため、少しでも早く外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんだり、言語や文化を体験的に学んだりする学習に取り組んで欲しいという願いもあるからです。

そこで、久留米市では、各学校の児童の実態や校内の指導体制を考慮し、下記のように段階的に先行実施に取り組むようにしています。

<平成30年度> 部分的な先行実施

【第3学年及び第4学年】

外国語活動…18～35時間（本市先行実施：3～20時間）

【第5学年及び第6学年】

外国語活動…53～70時間（本市先行実施：3～20時間）

※外国語科の内容を含む

<平成31年度> 全面的な先行実施

【第3学年及び第4学年】

外国語活動…35時間（本市先行実施：20時間）

【第5学年及び第6学年】

外国語活動…70時間（本市先行実施：20時間）

※外国語科の内容を含む

平成30年度については、各学校の負担過重にならないように先行実施の授業時数に幅をもたせています。しかし、同じ中学校区の小学校間で先行実施の取組に差が生じないように、バランスを考えながら年間指導計画を作成し、実施することが大切です。

ただし、久留米市において外国語教育に先進的に取り組んでいる久留米市外国語教育推進校（竹野小学校、京町小学校、西牟田小学校）については、平成30年度から全面的な先行実施に取り組む予定です。

第3期久留米市教育改革プランでは、「外国語教育の推進～コミュニケーションの重視～」を視点の1つに挙げています。平成32年度からの完全実施に円滑に移行するために、段階的な先行実施に取り組む、久留米市の児童生徒の外国語によるコミュニケーション力を高めていきたいものです。



2 外国語活動及び外国語科のカリキュラム例

2 パターンの年間指導計画を準備

久留米市における先行実施について、平成30年度は久留米市外国語教育推進校の3校とそれ以外の学校では、外国語教育に掛ける実施時数が異なります。

そこで学校の実態に配慮するために、3・4年生では「18H先行実施」と「35H先行実施」、5・6年生では「53H先行実施」と「70H先行実施」と、2パターンの年間指導計画を示しています。

年間指導計画の見方について

- ① 赤文字によって示された時数や内容は、移行措置期間に必ず実施することになります。また、青文字によって示された時数は、学習内容や学年間の系統性を考慮して教育委員会が設定したものです。さらに、使用教材の「新○」と示されているのは、移行期間中に文部科学省が使用する教材として準備したテキストです。

※ 「新3」：「Let's Try! 1」 「新4」：「Let's Try! 2」
 「新5」：「We Can! 1」 「新6」：「We Can! 2」

H30 3年生 年間指導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	18H 先行 実施	35H 先行 実施
新3	1	Hello! あいさつをして友達 になろう	Hello. Hi. I'm (Hinata). Goodbye. See you. ※この単元でHow are you? I'm (happy)の表現を扱う。	2	2
新3	2	How are you? ごきげんいかが？	How are you? I'm (happy).		2

- ② 赤枠の単元は、当該学年より下学年の新教材を使用していることから、必ず実施することになります。

H30 5年生 年間指導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	53H 先行 実施	70H 先行 実施
新4	6	Alphabet アルファベットで文字 遊びをしよう	Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have (six). Do you have (a 'b')? Yes, I do. / No, I don't. That's right. Sorry, try again.	4	4
新5	1	Hello, everyone. アルファベット・自己 紹介	Hello, I'm (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell your name? K-O-S-E-I. I [like / don't like] (blue). What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I want (a new ball).	3	6

- ③ 黄枠の単元は、高学年の外国語活動で使用してきた「HF1: Hi, friends! 1」や「HF2: Hi, friends! 2」を示していますので、必ず実施することになります。

H30 6年生 年間指導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	53H 先行 実施	70H 先行 実施
HF2	1	Do you have "a"? 言語 文字	Do you have ~? Yes, I do./No, I don't.	3	4
HF2	2	When is your birthday? 行事 月 日付	When is your birthday? My birthday is March eighteenth.	4	4

- ④ 青枠の単元は当該学年を対象とした新教材を取り扱うことになっており、文部科学省は実施するのが望ましいとしています。一方、白枠の単元は、児童が日常的に慣れ親しんでいる英語表現が中心となっていることから、導入程度の扱いでも可能としています。ちなみに、下の表は、「H30 4年生の年間指導計画」になりますが、「Hello, world!」の学習内容は挨拶に関するすることで、児童にとって日常的な内容であることから、白枠の単元となっています。

新4	1	Hello, world! 世界のいろいろな ことばであいさつ をしよう	Hello. Good [morning / afternoon]. I like (strawberries). Goodbye. See you.		2
新4	2	Let's play cards. 好きな遊びを伝え よう	How's the weather? It's [sunny / rainy / cloudy /snowy]. Let's (play cards). Yes, let's. Sorry. Stand up. /Sit down. /Stop. /Walk. / Jump. / Run. /Turn around.	2	4

- ⑤ 平成30年度に絵本を扱う単元（3年生：単元9 Who are you? 4年生：単元9 This is my day.）の「帯で扱う」については、読み聞かせとして単元の導入や終末に入れることも可能です。また、朝タイムや読書タイムなどの時間に、意図的・計画的に入れることも考えられます。ただし、扱う時期に関しては、表現や語彙の程度から3年生であれば単元8、4年生であれば後期の単元で取り扱うなどの配慮が必要です。

新3	9	Who are you? ～"In the Autumn Forest"～ きみはだれ?	Are you (a dog)? Yes, I am. / No, I'm not. Who are you? I'm (a dog). Who am I? Hint, please.	帯 で 扱 う	5
----	---	---	---	------------------	---

H30 3年生 年間指導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	18H 先行 実施	35H 先行 実施
新3	1	Hello! あいさつをして友達 になろう	Hello. Hi. I'm (Hinata). Goodbye. See you. ※この単元でHow are you? I'm (happy).の表現を扱う。	2	2
新3	2	How are you? ごきげんいかが？	How are you? I'm (happy).		2
新3	3	How many? 数えてあそぼう	How many (apples)? Ten (apples). Yes. That's right. No. Sorry.		4
新3	4	I like blue. すきなものをつたえよう	I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue). ※What ~ do you want?の表現を ここで扱う。	5	4
新3	5	What do you like? 何がすき？	What do you like? I like (tennis). What (sport) do you like? I like (soccer).		4
新3	6	ALPHABET アルファベットとな かよし	(Card 'A'), please. Here you are. Thank you. You're welcome.	5	5
新3	7	This is for you. カードをおくろう	What do you want? (A star), please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome.		4
新3	8	What's this? これなあに？	What's this? Hint, please. It's (fruit). It's (green). It's (a melon). That's right.	6	5
新3	9	Who are you? ～"In the Autumn Forest"～ きみはだれ？	Are you (a dog)? Yes, I am. / No, I'm not. Who are you? I'm (a dog). Who am I? Hint, please.	帯 で 扱 う	5

※ 新3 : 「Let's Try! 1」

H30 4年生 年間指導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	18H 先行 実施	35H 先行 実施
新3	1	Hello! あいさつをして友 達になろう	Hello. Hi. I'm (Hinata). Goodbye. See you.	1	2
新3	2	How are you? ごきげんいかが？	How are you? I'm (happy).	1	2
新3	4	I like blue. すきなものをつた えよう	I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue).	3	4
新3	6	ALPHABET アルファベットと なかよし	(Card 'A'), please. Here you are. Thank you. You're welcome.	4	4
新4	1	Hello, world! 世界のいろいろな ことばであいさつ をしよう	Hello. Good [morning / afternoon]. I like (strawberries). Goodbye. See you.		2
新4	2	Let's play cards. 好きな遊びを伝え よう	How's the weather? It's [sunny / rainy / cloudy /snowy]. Let's (play cards). Yes, let's. Sorry. Stand up. /Sit down. /Stop. /Walk. / Jump. / Run. /Turn around.	2	4
新4	3	I like Mondays. 好きな曜日は何か な？	What day is it? It's (Monday). Do you like (Mondays)? Yes, I do. / No, I don't. I like (Mondays).		3
新4	5	Do you have a pen? おすすめの文房具 セットをつくろう	Do you have (a pen)? Yes, I do. / No, I don't. I [have / don't have] (a pen). This is for you.	4	5
新4	8	This is my favorite place. お気に入りの場所 をしようかいしょ う	Go straight. Turn [right / left]. Stop. This is (the music room). This is my favorite place. Why? I like (music).	3	4
新4	9	This is my day. ～"Good Morning"～ ぼく・わたしの一 日	I wake up (at 6:00). I eat breakfast (at 7:00). I go to school. I go home. I take a bath.	帯 で 扱 う	5

※ 新3：「Let's Try! 1」、新4：「Let's Try! 2」

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	53H 先行 実施	70H 先行 実施
HF1	1	Hello! 言語 挨拶	Hello. My name is ~. What's your name? Thank you. Goodbye.	1	2
HF1	2	I'm happy. ジェスチャー 感情・様子	How are you? I'm happy.	1	2
HF1	3	How many? 数 身の回りの物	How many pencils? Five pencils.	4	4
HF1	4	I like apples. 果物 食べ物 飲み物 スポーツ 生き物	I like ~. I don't like ~. Do you like ~? Yes, I do./No, I don't.	5	5
HF1	5	What do you like? 色 形	What do you like? What animal/color/fruit/sport do you like? I like rabbits/red/bananas/soccer.	4	4
HF1	6	What do you want? アルファベット大文字 身の回りの物	What do you want? The 'A' card, please.	5	5
HF1	7	What's this? 身の回りの物	What's this? It's a piano.	4	4
HF1	9	What would you like? 食べ物 料理	What would you like? I'd like a hamburger.	4	4

※ HF1 : 「Hi, friends! 1」

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	53H 先行 実施	70H 先行 実施
新4	6	Alphabet アルファベットで文字 遊びをしよう	Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have (six). Do you have (a 'b')? Yes, I do. / No, I don't. That's right. Sorry, try again.	4	4
新5	1	Hello, everyone. アルファベット・自己 紹介	Hello, I'm (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell your name? K-O-S-E-I. I [like / don't like] (blue). What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I want (a new ball).	3	6
新5	3	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職業	Do you have (P.E.) on (Monday)? Yes, I do. / No, I don't. What do you have on (Monday)? I study (math). I want to be (a teacher). I want to study (math).	4	7
新5	5	She can run fast. He can jump high. できること	Can you (sing well)? Yes, I can. / No, I can't. [I /You/He/She] [can / can't] (sing well).	5	8
新5	7	Where is the treasure? 位置と場所	Where is the treasure? Go straight (for three blocks). Turn [right / left] (at the third corner). You can see it on your [right / left]. It's [on/ in / under / by] (the desk).	4	7
新5	9	Who is your hero? あこがれの人	Who is your hero? This is my hero. [He/ She] is good at (playing tennis). [He/She] is a good (tennis player). [He/She] can (cook well). [He/She] is [kind/cool/great/strong/gentle /active/brave/funny].	5	8

※ 新4 : 「Let's Try! 2」、 「新5」 : 「We Can! 1」

H30 6年生 年間指導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	53H 先行 実施	70H 先行 実施
HF2	1	Do you have "a"? 言語 文字	Do you have ~? Yes, I do./No, I don't.	3	4
HF2	2	When is your birthday? 行事 月 日付	When is your birthday? My birthday is March eighteenth.	4	4
HF2	3	I can swim. スポーツ 動作	I can/can't ~. Can you ~? Yes, I can./No, I can't.	4	4
新5	5	She can run fast. He can jump high. できること	Can you (sing well)? Yes, I can. / No, I can't. [I /You/He/She] [can / can't] (sing well).	3	6
HF2	4	Turn right. 建物 道案内	Where is the school? Go straight. Turn right/left. Stop. Excuse me.	5	4
HF2	5	Let's go to Italy. 世界の国々 世界の生	I want to go to Italy. Where do you want to go? Let's go.	4	4
HF2	6	What time do you get up? 世界の国々 世界の生活	I get up at seven. What time do you get up?	5	5
HF2	8	What do you want to be? 職業 将来の夢	I want to be a teacher. What do you want to be?	4	4
新5	9	Who is your hero? あこがれの人	Who is your hero? This is my hero. [He/ She] is good at (playing tennis). [He/She] is a good (tennis player). [He/She] can (cook well). [He/She] is [kind/cool/great/strong/gen tle/active/brave/f unny].	4	5

※ HF2 : 「Hi, friends! 2」、 「新5」 : 「We Can! 1」

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	53H 先行 実施	70H 先行 実施
新6	1	This is me. 自己しょうかい	I'm from (Shizuoka). I like/play (soccer). I can (play soccer well). I am good at (running). My birthday is (August 19th). My nickname is (Ken).	1	4
新6	3	He is famous. She is great. 人物紹介	I am (Ken). I [like / play] [the violin / baseball]. I [have / want] a new [recorder / a ball]. I eat (spaghetti). I study (math). I can [swim/ cook / skate / ski / sing / dance].	2	4
新6	4	I like my town. 自分たちの町・地 域	We have /don't have (a park). We can (see many flowers). We can enjoy [fishing / shopping / swimming]. I want a [library / park]. (Sakura) is a nice town.	2	5
新6	5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	I went to (my grandparents' house). I enjoyed (fishing). I saw (the blue sea). I ate [ice cream]. It was [fun /exciting /beautiful /delicious].	4	6
新6	7	My Best Memory 小学校生活・思い 出・行事	What's your best memory? My best memory is from (sports festival). We enjoyed (running). We [went to (Kyoto) / ate (Japanese food) / saw (old temples) / enjoyed (the trip)].	4	6
新6	9	Junior High School Life 中学校生活・部活 動	I like (basketball). I want to join the (basketball team). What club do you want to join? I want to enjoy (sports day). What event do you want to enjoy? I want to [study hard /read many books /make many friends].	4	5

※ 「新6」：「We Can! 2」

H31 3年生 年間指導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	35H 先行 実施
新3	1	Hello! あいさつをして友達 になろう	Hello. Hi. I'm (Hinata). Goodbye. See you. ※この単元でHow are you? I'm (happy).の表現を扱う。	2
新3	2	How are you? ごきげんいかが？	How are you? I'm (happy).	2
新3	3	How many? 数えてあそぼう	How many (apples)? Ten (apples). Yes. That's right. No. Sorry.	4
新3	4	I like blue. すきなものをつたえよう	I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue). ※What ~ do you want?の表現をここで扱う。	4
新3	5	What do you like? 何がすき？	What do you like? I like (tennis). What (sport) do you like? I like (soccer).	4
新3	6	ALPHABET アルファベットとな かよし	(Card 'A'), please. Here you are. Thank you. You're welcome.	5
新3	7	This is for you. カードをおくろう	What do you want? (A star), please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome.	4
新3	8	What's this? これなあに？	What's this? Hint, please. It's (fruit). It's (green). It's (a melon). That's right.	5
新3	9	Who are you? ～"In the Autumn Forest"～ きみはだれ？	Are you (a dog)? Yes, I am. / No, I'm not. Who are you? I'm (a dog). Who am I? Hint, please.	5

※ 新3：「Let's Try! 1」

H31 4年生 年間指導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	35H 先行 実施
新4	1	Hello, world! 世界のいろいろなことばであいさつをしよう	Hello. Good [morning / afternoon]. I like (strawberries). Goodbye. See you.	2
新4	2	Let's play cards. 好きな遊びを伝えよう	Let's (play cards). Yes, let's. Sorry. Stand up. / Sit down. / Stop. / Walk. / Jump. / Run. / Turn around.	4
新4	3	I like Mondays. 好きな曜日は何かな?	What day is it? It's (Monday). Do you like (Mondays)? Yes, I do. / No, I don't. I like (Mondays).	3
新4	4	What time is it? 今、何時?	What time is it? It's (8:30). It's (homework time). How about you?	4
新4	5	Do you have a pen? おすすめの文房具 セットをつくろう	Do you have (a pen)? Yes, I do. / No, I don't. I [have / don't have] (a pen). This is for you.	4
新4	6	Alphabet アルファベットで文字 遊びをしよう	Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have (six). Do you have (a 'b')? Yes, I do. / No, I don't. That's right. Sorry. Try again.	4
新4	7	What do you want? ほしいものは何かな	What do you want? I want (potatoes), please. How many? (Two), please. Here you are. Thank you.	5
新4	8	This is my favorite place. お気に入りの場所を しょうかいしよう	Go straight. Turn [right / left]. Stop. This is (the music room). This is my favorite place. Why? I like (music).	4
新4	9	This is my day. ～"Good Morning" ～ ぼく・わたしの一日	I wake up (at 6:00). I eat breakfast (at 7:00). I go to school. I go home. I take a bath.	5

※ 新4 : 「Let's Try! 2」

H31 5年生 年間指導計画導計画

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	70H 先行 実施
HF1	3	How many? 数 身の回りの物	How many pencils? Five pencils.	4
HF1	5	What do you like? 色 形	What do you like? What animal/color/fruit/sport do you like? I like rabbits/red/bananas/soccer.	4
新4	6	Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう	Look. What's this? Hint, please. How many letters? I have (six). Do you have (a 'b')? Yes, I do. / No, I don't. That's right. Sorry. Try again.	4
HF1	7	What's this? 身の回りの物	What's this? It's a piano.	4
新5	1	Hello, everyone. アルファベット・自己紹介	Hello, I'm (Saki). Nice to meet you. My name is (Kosei). How do you spell your name? K-O-S-E-I. I [like / don't like] (blue). What (sport) do you like? I like (soccer) very much. I want (a new ball).	7
新5	2	When is your birthday? 行事・誕生日	When is your birthday? My birthday is (August 19th). What (sport) do you like? Do you like (soccer)? Yes, I do. / No, I don't. I [like / don't like] (soccer). Do you want (new soccer shoes)? What do you want for your birthday? I want (a dog). This is for you. Thank you. You're welcome. Happy birthday.	6

※ HF1 : 「Hi, friends! 1」、新4 : 「Let's Try! 2」、新5 : 「We Can! 1」

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	70H 先行 実施
新5	3	What do you have on Monday? 学校生活・教科・職	Do you have (P.E.) on (Monday)? Yes, I do. / No, I don't. What do you have on (Monday)? I study (math). I want to be (a teacher). I want to study (math).	6
新5	4	What time do you get up? 一日の生活	What time do you (get up)? I (usually) (get up) at (7:00).	7
新5	5	She can run fast. He can jump high. できること	Can you (sing well)? Yes, I can. / No, I can't. [I /You/He/She] [can / can't] (sing well).	7
新5	7	Where is the treasure? 位置と場所	Where is the treasure? Go straight (for three blocks). Turn [right / left] (at the third corner). You can see it on your [right / left]. It's [on/ in / under / by] (the desk).	7
新5	8	What would you like? 料理・値段	What would you like? I'd like (spaghetti). It's for (my brother). This is for (my brother). How much? It's (970 yen). Here you are. Thank you.	7
新5	9	Who is your hero? あこがれの人	Who is your hero? This is my hero. [He/ She] is good at (playing tennis). [He/She] is a good (tennis player). [He/She] can (cook well). [He/She] is [kind/cool/great/strong/gentle/active/brave/funny].	7

※ 「新5」：「We Can! 1」

H31 6年生 年間指導計画 ☆白枠の単元3つの中から1つを選択して指導する

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	70H 先行 実施
HF2	2	When is your birthday? 行事 月 日付	When is your birthday? My birthday is March eighteenth.	4
HF2	5	Let's go to Italy. 世界の国々 世界の生活	I want to go to Italy. Where do you want to go? Let's go.	4
HF2	6	What time do you get up? 世界の国々 世界の生活	I get up at seven. What time do you get up?	5
HF2	8	What do you want to be? 職業 将来の夢	I want to be a teacher. What do you want to be?	4
新6	1	This is me. 自己紹介	I'm from (Shizuoka). I like (soccer). I can (play soccer well). I am good at (running). My birthday is (August 19th). My nickname is (Ken). What [colors /subjects /fruits /sports /animals] do you like? What is your favorite [colors /subjects /fruits /sports /animals]? When is your birthday?	8
新6	2	Welcome to Japan. 日本の文化	Welcome to Japan. In (summer), we have (fireworks festival). What [food / games] do you have in Japan? We have [soba / fukuwarai]. It's [delicious / fun]. You can enjoy [rakugo /hamami /tempura].	7 選択
新6	3	He is famous. She is great. 人物紹介	I am (Ken). I [like / play] [the violin / baseball]. I [have / want] a new [recorder / a ball]. I eat (spaghetti). I study (math). I can [swim/ cook / skate / ski / sing / dance]. I can (play baseball well). Who is this? [He/ She] is [famous / great].	8

※ HF2 : 「Hi, friends! 2」、 「新6」 : 「We Can! 2」

使用教材	単元	タイトル・題材	主な表現例	70H 先行 実施
新6	4	I like my town. 自分たちの町・地域	We have /don't have (a park). We can (see many flowers). We can enjoy [fishing / shopping / swimming]. I want a [library / park]. (Sakura) is a nice town.	8
新6	5	My Summer Vacation 夏休みの思い出	I went to (my grandparents' house). I enjoyed (fishing). I saw (the blue sea). I ate [ice cream]. It was [fun /exciting /beautiful /delicious].	8
新6	6	What sport do you want to watch? オリンピック・パラリンピック	What do you want to watch? I want to watch (wheelchair basketball). I like basketball. Are you good at (basketball)? Yes, I am./No, I'm not.	7 選択
新6	7	My Best Memory 小学校生活・思い出	What's your best memory? My best memory is from (sports festival). We enjoyed (running). We [went to (Kyoto) / ate (Japanese food) / saw (old temples) / enjoyed (the trip)].	8
新6	8	What do you want to be? 将来の夢・職業	What do you want to be? I like (animals). I want to be a (vet). I can (play the piano well). I am good at (playing the piano). I want to be a (pianist). That's (good). Good luck.	7 選択
新6	9	Junior High School Life 中学校生活・部活動	I like (basketball). I want to join the (basketball team). What club do you want to join? I want to enjoy (sports day). What event do you want to enjoy? I want to [study hard /read many books /make many friends].	6

※ 「新6」：「We Can! 2」

3 授業時数の効果的な運用について

新学習指導要領で5・6年に外国語科、3・4年に外国語活動が新設されるに伴い、授業時数確保のため、教科等の年間指導計画や年間行事計画、時間割等を改めて精査し、総合的に検討することが求められてきます。

ここでは、授業時数を効果的に運用していくための手順や視点を示します。

予備時数の使い方を見直す

① 各教科等の授業時数と標準授業時数の差を充てる

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準時数	850	910	945	980	980	980
最小～最大	931～1035	995～1090	1026～1213	1082～1213	1124～1261	1118～1223
平均	965	1034	1074	1129	1189	1160

【表】「平成28年度久留米市小学校教育課程実施状況調査」

久留米市の小学校の教育課程実施状況調査の結果（上表）を見ると、各教科等の最小授業時数が全て標準時数を超えるなど、多くの学校が標準時数を大きく超えて授業を行っていることがわかります。もちろん、児童の学力の保障と向上のために、国語科や算数科を中心に重点単元を設けたり、補充学習の時間を位置付けたりして工夫していることが多くあるのも事実です。

今一度、各教科等の授業時数について見直しを行っていくことが求められます。

② 学級活動以外の特別活動の精選を行う

標準授業時数の規定がない学級活動以外の特別活動の中身としては、クラブ活動、児童会活動（児童集会、委員会、代表委員会）、学校行事が該当します。

平成28年度の久留米市の小学校におけるクラブ活動の実施時間の平均は12.4時間で、最大は20時間、最小は9時間です。学校の実態に違いがあるかもしれませんが、見直しを図っていくことができそうです。

他にも、児童会活動の中の児童集会については、「毎月実施していたものを学期に1回の実施とする」「複数回の集会を朝活動の時間に放送集会で行う」、さらに、学校行事については、「学期末大掃除に代えて学期末の週を大掃除ウィークにして実施する」「運動会の全体練習の内容を見直し回数を減らす」など、学校の実情に合わせながら様々な工夫を考えることができると思います。

総合的な学習の時間から15時間を超えない範囲で時数を確保する

平成30・31年度においては、外国語活動の授業時数の実施のために、特に必要がある場合（①週時程の増加が困難、②土曜日の活用も来年度から直ちには困難、③夏休みの短縮もできない）には、総合的な学習の時間の授業時数から15時間を超えない範囲内の授業時数を減じることができず。

ただし、2年間のみの限定措置であり、総合的な学習の時間のカリキュラムを度々、修正する必要が生じてきます。また、「くるめ学」への配慮や、外部団体や地域等と連携した学習に関して、相手方との十分な協議調整を行ってもらうことが求められます。

時間割の編成において工夫を行う

① 平成30年度は中学年においては2通りの時間割で運用する

仮に、外国語活動を18時間実施すると、2週間に1回の割合で授業を行うこととなります。その場合、A週（外国語活動がある週）は標準時数よりも多くの時数を配当している教科から1時間減らし、B週（外国語活動がない週）は通常通りに行うなどの工夫が求められます。

② モジュール学習を実施する **※ただしモジュール学習のカリキュラムが必要**

ア 週1コマ+朝モジュール型

イ 週1コマ+昼モジュール型

	月	火	水	木	金
朝活動	モジュール 外国語⑮		モジュール 外国語⑮		モジュール 外国語⑮
1			外国語		
2					
3					
4					
給食					
昼休み					
掃除					
5					
6					

	月	火	水	木	金
朝活動					
1					
2					
3			外国語		
4					
給食					
昼休み					
掃除					
〇〇タイム	モジュール 外国語⑮		モジュール 外国語⑮		モジュール 外国語⑮
5					
6					

○週1コマの45分授業以外に週3回、朝の15分間の外国語モジュール学習を実施する。

○週1コマの外国語の時間を1時限目に設定し、モジュールからの流れで次の授業に入る。

○モジュール学習のない曜日に補充学習や読書の時間を設定することが可能である。

○週1コマの45分授業以外に週3回、午後の帯時間に15分間の外国語モジュール学習を実施する。

○週1コマの外国語の時間を、ALTの来校日に合わせて設定することで、授業内容との関連が図られるようにする。

○朝活動の時間に、補充学習や読書の時間を設定することが可能である。

外国語学習の特質を踏まえ、モジュール学習を行う際は、まとまりのある授業時間を確保した上で、両者の関連性を明確にする必要があります。このため、週当たり1単位時間の外国語活動を短時間で実施することは困難であると文部科学省が説明しており、高学年の外国語科においてのみモジュール学習が可能となります。

4 小学校外国語教育の充実に向けた研修について

自信をもって小学校外国語教育に取り組むために！

「外国語活動と外国語科の違いは何なのか。」「外国語はどのように指導すればよいのか。」「英語が苦手なのに・・・。」などと、小学校外国語教育について不安感を抱いている先生方は多いのではないのでしょうか？

自信をもって授業をするためには、外国語活動や外国語科について理解を深める研修や教師自身の英語力を高める研修に取り組む必要があります。



研修を通して学習指導力と自身の英語力を高めよう！

外国語活動や外国語科の授業を行うに当たって、次のような研修に取り組むことが、学習指導力と教師自身の英語力を向上させることにつながります。

<外国語活動や外国語科について理解を深める研修>

- ・外国語活動と外国語科の目標や内容について
- ・外国語科における各領域の指導方法について
- ・題材や言語活動について
- ・小学校外国語教育の評価について
- ・他教科等と連携した指導の在り方について など



<教師自身の英語力を高める研修>

- ・クラスルーム・イングリッシュについて
- ・基本英会話
- ・Small Talk (スモール・トーク)
- ・スピーキング・トレーニング
- ・発音のトレーニング など



研修に役立つ資料及びリンク集

小学校外国語教育を充実させるために、国や県も先生方の研修に役立つ資料を準備しています。ここでは、そのような資料の中から、特におすすめするものを紹介いたします。

校内研修や個人研修に取り組む際に、ぜひご活用ください。

おすすめ NO1

文部科学省

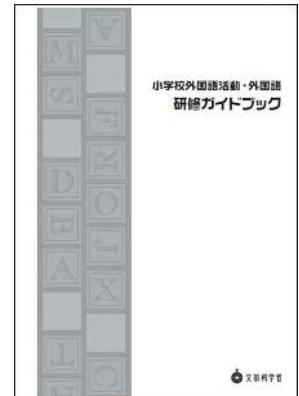
「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」

http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

この研修ガイドブックは、基本編、授業研究編、実践編、実習編、理論編、研修指導者編で構成されており、小学校外国語教育を充実させる上で重要な情報が詳細に記されています。

特に、小学校外国語教育の目標や内容、授業研究の視点、各領域における指導の在り方等は、外国語活動や外国語の授業づくりに多いに役立ちます。

この研修ガイドブックは、上記のアドレスのサイトでダウンロードすることができます。



おすすめ NO2

福岡県教育センター

「小学校における英語教育の教科化に向けた校内研修」

http://www.educ.pref.fukuoka.jp/one_html3/pub/default.aspx?c_id=472

英語の指導力向上に向けた「校内研修プラン」が掲載されています。2つのパッケージプランと9つのセレクトプランがあり、各学校の実態や研修の目的に応じた研修を実施できます。

また、各プランには、研修内容のプロット、スライド資料及び読み原稿、研修の展開例まで示されているため、短時間の準備で効果的な研修を実施できるようになっています。

文部科学省「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」においても紹介されています。



おすすめ NO3

文部科学省 nextchannel

※YouTube の文部科学省チャンネル

このサイトでは、「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」に示されている英語の音声再生することができます。繰り返し聞いて、自身の英語力を向上させましょう。

「Small Talk」

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCezq1Tv...>

「クラスルーム・イングリッシュ」

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbDIUWRy-...>

「基本英会話」

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbDMo7Kku...>

「スピーキング・トレーニング」

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLGpGsGZ3lmbCB54hi1...>

【参考文献】

- 1 文部科学省 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」(平29)
- 2 福岡県教育センター 研究紀要「小学校における英語教育の教科化に向けた校内研修」(平29)
- 3 松川禮子、大城賢 「小学校外国語活動実践マニュアル」旺文社(2008)
- 4 卯城祐司、蛭田勲 「平成20年改訂 小学校教育課程 外国語活動編」ぎょうせい(2009)
- 5 平田和人 「平成20年改訂 中学校教育課程 外国語編」ぎょうせい(2009)
- 6 中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方針等について(答申)」(2008)
- 7 伊藤治己 「外国語活動における文字の扱い再考ー文字を使つての指導と文字指導を区別しようー」鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要 第4号(2009)
- 8 酒井英樹、滝沢雄一、亙理陽一 「小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ」三省堂(2017)
- 9 吉田研作 [編集] 「小学校英語教科化への対応と実践プラン」教育開発研究所(2017)
- 10 菅正隆 「平成29年改訂 小学校教育課程実践講座 外国語活動・外国語」ぎょうせい(2017)
- 11 ベネッセ教育総合研究所 「VIEW21 教育委員会版 2017Vol.2」(2017)
- 12 教育開発研究所 「月刊 教職研修 12月号」(2017)
- 13 樋口 忠彦、高橋 一幸、加賀田 哲也、泉 恵美子 「Q&A 小学校英語指導法事典～教師の質問112に答える～」教育出版株式会社

久留米市教育センター調査研究 外国語教育班

小西 郁美（北野中 主幹教諭）

稲益 玲子（京町小 教諭）

龍野 美千子（西牟田小 教諭）

室園 幸一郎（竹野小 教諭）

石橋 敬嗣（学校教育課 指導主事）

池松 靖仁（学校教育課 指導主事）

桑野 洋志（教育センター 指導主事）

馬渡 茂人（教育センター 指導主事）

